

厚生 福祉

 時事通信社

104-8178 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信社
昭和28年5月30日 第3種郵便物認可
毎週2回火・金曜日発行(但し祝日を除く)
購読料金 税抜月額4,100円
本誌掲載記事・写真などの無断複写、複製、転載を禁じます。
©時事通信社2017
◎誌面内容に関するお問い合わせ(編集部)
kousei-dokusha@jiji.com

目次

スウェーデンの医療と国民性

スウェーデンの医療は、欧米先進諸国11カ国を比較した英国のコモンウェルス・フアンド2014によれば英国、スイスの後塵(ちゆうじん)を拝して第3位という評価にとどまっている。患者負担、公平性、効率性、健康寿命の指標では良くても、アクセス、効果、連携、患者中心度では大いに劣っているからである。

日本との比較はないが、似て非なるところが大きい。スウェーデンの医療は決して患者に優しい医療ではない。なぜこれ程までに医療へのアクセスを制限するのか、なぜ現場の医師までコストとアクセスとクオリティのバランスを重視するのか、長い夏休みや非番の徹底などなぜここまで医師の

元・駐スウェーデン・渡邊芳樹 特命全権大使



QOLが高いのか、国民はなぜ我慢しているのかなど、基本的な疑問に答えるには人と社会の原点にまでさかのぼらなければ難しい。

20世紀後半のスウェーデンは、「例外の国」「モデル国家」などと呼ばれた。大国もスウェーデンに学べと躊躇なく言った「大きくて小さな国」であった。今やEUの一員として「普通の国」になったが、その国民性は変わらない。

欧州北辺の地に生きるスウェーデン人の本質は「自律(立)と平等」にある。男女の別なく「自らを教育し、働き、納税し、他者の権利を尊重し、その上で自分の権利を表現せよ」と現首相のステファン・ロヴェーン氏が述べていた。社会への信

頼と過激なまでの個人主義を真髄とする。お互い頼り合わず、不平等な力関係に身を置かない。そこに真の愛や友情がある。これこそ家族の近代化であり、個々人の力を最大限に発揮させ社会の荒波を乗り越えさせると信じている。他者に奉仕するボランティアは原則認められない。

医療や福祉でも対等な当事者関係を基本とする。患者が医師の勤務条件を尊重、我慢することは、自律と平等の原則にかなわない、医療の質を高めると確信している。患者は毎日のように医者通い、医師は疲弊してまで患者に奉仕する日本の医療現場にはスウェーデン人医師はとてども雇えない。ここまで違くと日本の方が患者も医師も極端であり、将来を見据えて変革すべきは日本の方かという感慨も禁じえない。